

平成 16 年度環境省請負事業

平成 16 年度  
リユースカップ等の実施利用に関する  
検討調査報告書

平成 17 年（2005 年）3 月

財団法人 地球・人間環境フォーラム



## はじめに ～3Rの進展に寄与するデポジット制度

21世紀の最重要課題の一つである循環型社会づくりを進めるためには、いわゆる3R(スリー・アール)、「リデュース(発生抑制)・リユース(再使用)・リサイクル(再生利用)」の取り組みを推し進めることが重要である。しかし近年、飲料容器に関しては、缶やPETボトル、紙容器などの使い捨て容器が急増し、一昔前までは当たり前だった「回収して洗浄し、再び容器として使用する」リユースのしくみが急激に衰退しているのが現状である。

使い捨て容器は回収・リサイクルされているものもあるが、リサイクルには新たな多くのエネルギー投入が必要な場合も多く、まずは廃棄物の発生の抑制、さらに資源の有効活用、「もったいない」という観点からも繰り返し使うリユースのしくみを再構築することが求められている。

このような中、サッカー・スタジアムや地域のお祭り、野外音楽ライブ、ライブハウスなどの一定の閉鎖空間において、プラスチック製(ポリプロピレン)の飲料用カップを繰り返し利用するシステム(以下、リユースカップシステム)を導入する動きが、全国各地で広がりつつある。

(財)地球・人間環境フォーラムでは、日本国内のサッカー場におけるリユースカップの普及を目指し、大分スポーツ公園総合競技場(愛称:ビッグアイ)、横浜国際総合競技場での導入を後押しすると同時に、2002年よりスポーツ施設や地域イベントなどにおけるリユースカップの実施利用に関するさまざまな検討調査を、環境省委託事業として実施してきた。

リユースカップ導入に伴う環境影響評価については、LCA等により環境負荷の低減が十分に実証(平成15年度調査)されたため、本報告書ではリユースカップの回収にあたって採用されたデポジット制度のメリット、デメリットについて詳しく触れることにした。スタジアム、ライブハウスのような閉鎖的空間では、デポジットの効用は大いに期待できること、サッカーのサポーター、音楽ファンの若者たちの間では、リユースカップ1個に対し、ワンコイン100円のデポジットがほとんど抵抗なく受け入れられることも明らかになった。

地域の映画館が、サッカー場で利用されているマイカップを持参した観客からは飲料代を割り引くといった試み(仙台市)も始まっている。また、2005年3月には、環境省委託事業の一環として、リユース食器ネットワークが設立されるなど、循環型の持続可能な社会作りに向けての3R活動が進展を見せている。

平成17年3月

財団法人 地球・人間環境フォーラム



第4章 リユースカップによるデポジット制導入に関する課題	54
第1節 デポジット制度の必要性に関する考察	54
1. 導入のメリット	
2. デメリットおよび課題	
第2節 リユースカップとデポジット制導入	57
第5章 リターナブル容器システムにおける運搬車両の開発	58
第1節 京都における「エコまつり」の現状	58
1. リターナブル容器システムとは	
2. 環境啓発効果も目指した食器洗浄器搭載車の開発	
3. 課題の解決に向けて	
第2節 環境対策支援便 RE-ECO の運搬車両開発	61
第3節 エコまつりの実現に向けて	63
第6章 リユース食器ネットワークの設立	65
1. 第2回リユース食器フォーラム	
2. 活動内容	
3. 目指す活動	
4. 参加団体	
おわりに	67